



加藤辰昭理事長

1. 加藤理事長新任ご挨拶

この度、第31回通常総会におきまして、中部土質試験協同組合の第15代理事長をお引き受けすることとなりました加藤辰昭です。理事、組合員、準組合員並びに組合職員の皆様のご協力を頂き任期を全うしたいと思いますので、ご支援ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

平成21年8月の衆議院総選挙によって政権交代が実現し、民主党の鳩山政権が誕生したことで、私共を取り巻く受注環境はより一層厳しいものとなったと考えます。その10月の所信表明演説では、「造ることを前提に考えられてきたダムや道路、空港や港などの大規模な公共事業について、国民にとって本当に必要なものかどうかをもう一度見極めることからやり直す」とし、「コンクリートから人へ」の理念に沿った形で国の公共事業関連政策の方針転換を表明し、近年継続して削減されてきた公共事業費がさらに圧縮される環境にあるといえます。

このように、建設投資の見通しが不透明な中におきましても、当試験組合は、平成16年～21年の5年間に於いて、受注・完成額が目標に対して毎年120%～150%程度と順調に推移するとともに、増収を維持しております。この好成績を上げることができたことにつきましては、平成18年度に就任された伊藤理事長が指摘された次の3要因（順番・表現を一部変更しております）を継続できていることと併せて、4.に示しますように、近年取り組んできました職員の高品質化への努力が、認知されつつあることなどの複合的要因によるものと考えます。勿論1.の要因が最大であることは指摘するまでもありません。このことに関しましては、組合員および準組合員の皆様に厚くお礼申し上げ、今後とも絶大なご支援をお願いしたいと思います。

1. 組合員・準組合員の皆さんが受注施策に創意工夫され、受注された土質試験業務をご発注していただいた。
2. 地質調査業協会・地盤工学会等の長年にわたる土質試験への重要性・必要性の提示が浸透してきた。
3. 組合が積み重ねてきた実績、講習会等の諸活動を通じて、ご発注機関に対して認知度が向上した。
4. 組合職員の日頃の品質向上確保への努力が、組合員・準組合員ほか一般企業に認知されてきた。

当試験組合は、小川前理事長のH21年度に設立30周年を迎えましたが、歴代の理事、組合員、組合職員等の諸先輩方の長年にわたるご努力、ご尽力により、今日の組合が存在していると思います。これらの経緯につきましては、平成21年度に発行しました「ジオ・ラボ中部30周年記念誌」をご参照いただければ幸いです。新理事長として、このような歴史のある中部土質試験協同組合を、よりよい形で次世代に継承していくために努力しなければならないと思っています。

今年度は民主党政権になって初めての年度を迎えることとなり受注環境は、従来にも増して、より一層の不透明、困難な状況が予想されます。これらに対処するために、当組合と致しましては、平成22年度事業方針と目標としまして以下の3項目を掲げ活動して参りますので、ご支援ご鞭撻を今まで以上にお願いしたいと思います。

1. 事業規模の維持（1.35億の確保と稼働、技術の複合化）
2. 組織の強化（顧客満足度の向上、地盤工学的知識の向上、資格取得）
3. 経営の維持的進化（業務推進のパートナーとして組合員・準組合員と連携、人材の育成、CPD確保）

最後に、何度も記述しておりますが、組合運営は組合員・準組合員の皆様からのご発注が最重要でございますので、更なるご支援・ご愛顧をお願いしまして、私の理事長就任の挨拶とさせていただきます。

2. 最近の土質試験講習会から

(1) 第6回地盤調査ボーリング作業～室内土質試験見学会

主催：(社)地盤工学会中部支部，後援：中部地質調査業協会・中部土質試験協同組合で，例年に比較して，少し早めに下記日程で実施された。

- ・開催日時：平成22年5月21日(金) 13:00～17:00 開催場所：中部土質試験協同組合
- ・開催内容：第1部 地盤調査ボーリング作業 (13:00～15:00) 第2部 土質試験見学 (15:15～17:00)

当日は，実務者を中心に参加者を募集した（ここ数年，名大の授業の一環としても同時開催していたが，参加者が多くなりすぎる傾向があったことから，今回は実務者を中心とした）ことにより，58名の参加で実施された。当日，(社)地盤工学会中部支部が整理された「参加者からのアンケート結果」を写真と共に提示します。



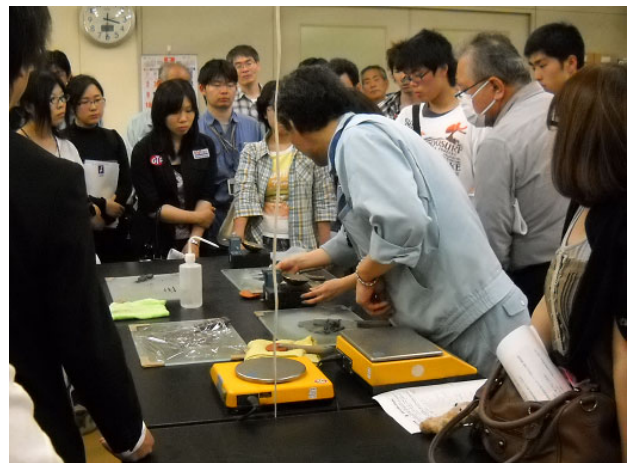
ボーリング見学会状況



第1部会委員長小高猛司先生 中部地質調査業協会伊藤理事長



一軸試験供試体作製見学状況(久保・芝原職員)



液性限界試験見学状況(加藤・石原職員)

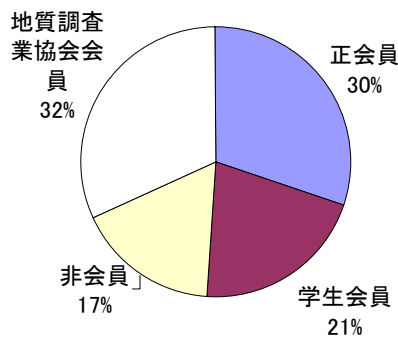


材料試験説明の小倉職員・岩田職員

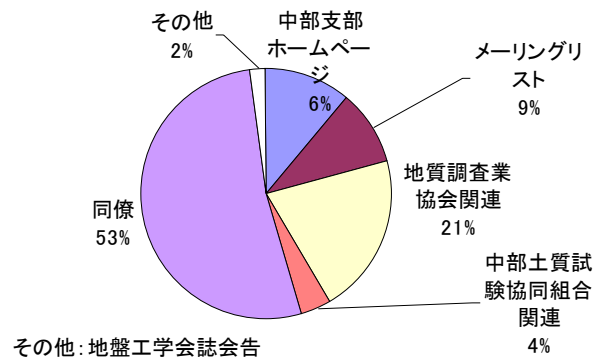


岩石試験説明の池田職員

1. 参加された方の会員種別.

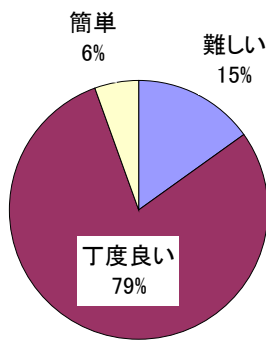


2. 本講習会の案内は何処で知ったか.

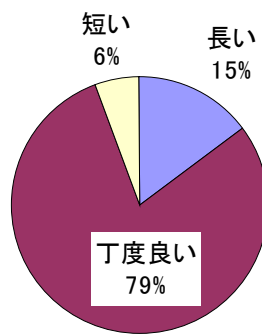


3. 第2部土質試験編に対するアンケート結果

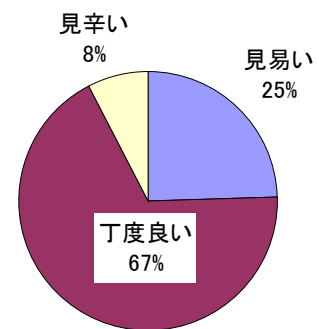
● 難易度



● 講習時間



● 資料



(引用：(社)地盤工学会中部支部 (小高猛司, 鶴飼峰子)

アンケート整理結果, H22年6月7日

4. その他、本講習会についてお気づきの点.

- ・ 貴重な経験ができた. 有難うございました.
- ・ 学生会員は三軸・一軸などは大学で行ったので, CBRや液状化などの未体験の試験に時間をかけてほしいと思う.
- ・ 非常に有意義だったが, 疲れた.
- ・ 休憩を入れてほしい.
- ・ 内容が多すぎるのでは.
- ・ 講習時間が長くなるので, 休憩する場所があると有難いが.
- ・ とても有益な内容だと思う. 土質試験は, やや難しいが, 試験法自体難しいので, やむ得ない面もあると思う.
- ・ 人数が多く後からよく見えない場合があった. 人数の制限と共に1部, 2部は別日で実施した方が効果が上がるように思う. 学生から一般技術者まで様々な人達が参加しており, 説明する側もターゲットが定まり辛かった様に思う. 想定参加層の情報を会告時に示してはどうか?
- ・ 土質試験でデータとシートの見方を詳細に.
- ・ 大変参考になった. 有難うございました.
- ・ 難しい試験(三軸)などについてはもう少し時間があるといい.
- ・ やはり身近な試験は簡単と思うが, 見慣れてない試験は難しい.
- ・ 実際に試験を出来ればと思った.
- ・ 若い技術者向けに体験できればと思う.

5. ご要望.

- ・ 勉強になった.
- ・ 物理探査に関する現場講習会, 地盤環境調査.
- ・ 入門として非常にわかりやすかった.
- ・ 仮設(傾斜地足場等)の現場見学がしたい.

6. 共催者としての印象

- ①土質試験編については, 難易度・講習時間ともに「丁度良い」が79%, テキストは92%が満足していただいている.
- ②当組合のオリジナルの「判りやすい地盤材料試験」をサブテキストに使用したが, これが好評だったと考える.



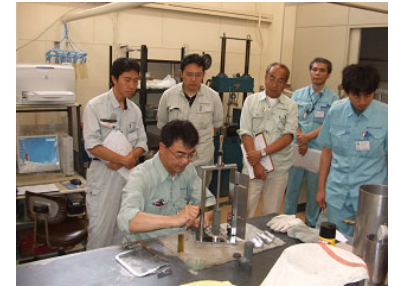
レイモンドサンプラーの説明(株)ダイヤコンサルタント: 土本氏)

(2) 第1回土質試験実習(平成22年6月10日, 6月17日)

当組合では、従来からご要望がありました土質試験の実際を知りたい方を対象とし、土質試験体験実習会を企画・実施しました。土質試験の実施から試験結果の解説などを、2日間に分けて当組合スタッフが解説しました。参加方法については、2回通しでも、興味のある試験に特化されての申込でも対応させていただきとして、組合員・準組合員にご案内しましたところ、想定以上の参加者となりましたが、2パーティに区分してローテーションを行うことにより、参加者から好評を博しましたので、実施報告を記載しました。

土質試験実習プログラム(1日目) 注)22名参加

時間	試験項目	担当者	プログラム	班区分	
9:30~10:00	土質試験概要	・坪田 ・久保 ・加藤	・開催目的など ・ビデオによる全体概要	全員	
10:00~12:00	物理試験	・加藤 ・石原	・土粒子密度・含水・粒度 (ホットプレートによる効果を解説) (物理試験の必要量を理解してもらう)	A (10:00~11:00)	B (11:00~12:00)
			・液性試験と塑性試験 (液性限界と塑性限界グループに区分)	B (10:00~11:00)	A (11:00~12:00)
(昼 食)					
13:00~13:40	・抜出し ・観察	・加藤 ・芝原 ・伊藤	・抜出し状況を見学 ・抜出し野帳記入を解説 ・試料観察	A (13:00~13:20)	B (13:20~13:40)
	・凍結成形実演	・久保 ・池田	・凍結成形の実演 ・精度の高い供試体作製	B (13:00~13:20)	A (13:20~13:40)
13:45~16:00	・圧密試験	・加藤 ・岩田	・供試体の設置方法とリング挿入 ・沈下曲線から t_{90} ・ d_{90} ・ P_c を求める ・粘性土・砂質土の特徴解説	A (13:45~15:00)	B (15:00~16:15)
	・三軸試験	・久保 ・小倉 ・池田	・供試体セット ・飽和・圧密・せん断を見学 ・排水・非排水の対応方法 ・間隙水圧の測定方法など ・UU/CD/CUBの試験法の違い	B (13:45~15:00)	A (15:00~16:15)
16:15~17:00	・総括	・坪田 ・久保 ・加藤	・質疑応答 ・意見交換	全員	



参加者による供試体の作成



参加者による一軸試験の実施

土質試験実習プログラム(2日目) 注)27名参加

時間	試験項目	担当者	プログラム	班区分	
10:00~12:00 (休憩:10分)	・岩石~材料試験	・梅田 ・池田	・岩石試験 ・ブロックコア抜き、端面整形 ・一軸試験(ゲージ張り) ・超音波、スレーキング	A (10:00~10:55)	B (11:05~12:00)
		・小倉 ・岩田	・材料試験 ・締固めの作製方法 ・含水調整方法(試料必要量など解説)	B (10:00~10:55)	A (11:05~12:00)
(昼 食)					
13:00~16:40 (休憩:10分)	・一軸試験	・加藤 ・芝原	・せん断状況・試験結果の見方 ・成形を実際に体験 ・破壊状況により応力・ひずみ曲線の変化など ・砂分の量により三軸UUの適用などを解説 ・試験結果から歪みと乱れの関係などを解説	A (13:00~14:45)	B (14:55~16:40)
	・動的試験	・久保 ・池田	・変形特性の試験状況を見学 ・G・hを解説 ・液状化の試験状況を見学 ・液状化する様子を見せる ・粘土・砂の特徴解説(液状化・変形特性)	B (13:00~14:45)	A (14:55~16:40)
16:40~17:00	・総括	・坪田 ・久保 ・加藤	・質疑応答 ・意見交換	全員	



圧密試験結果の検討・意見交換



サンドパイプも観察しました



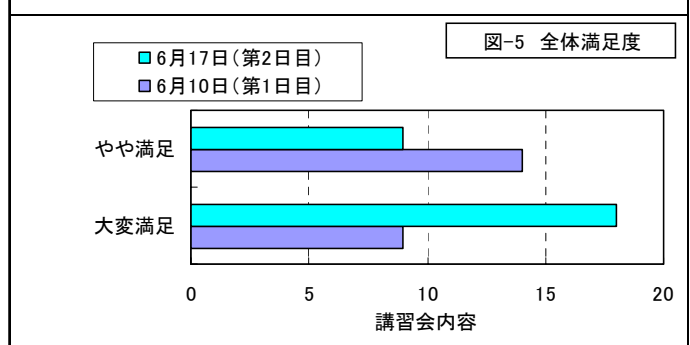
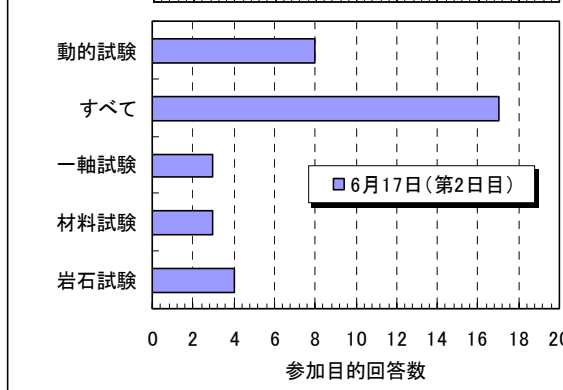
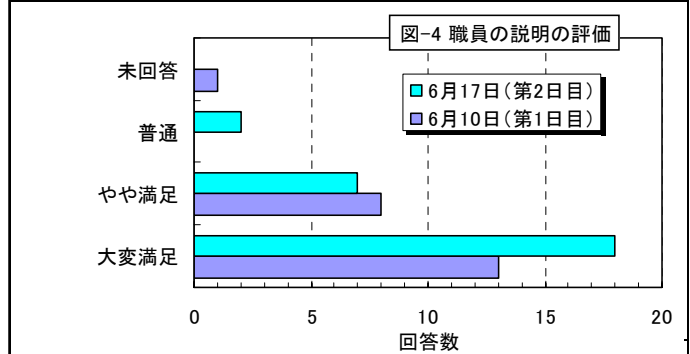
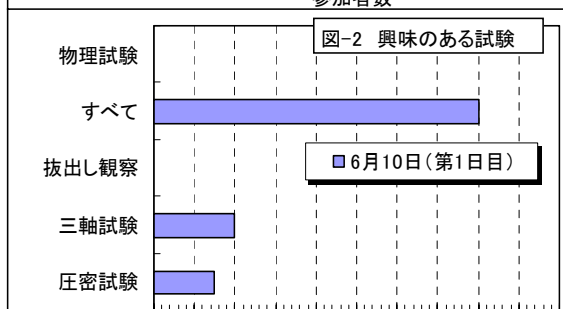
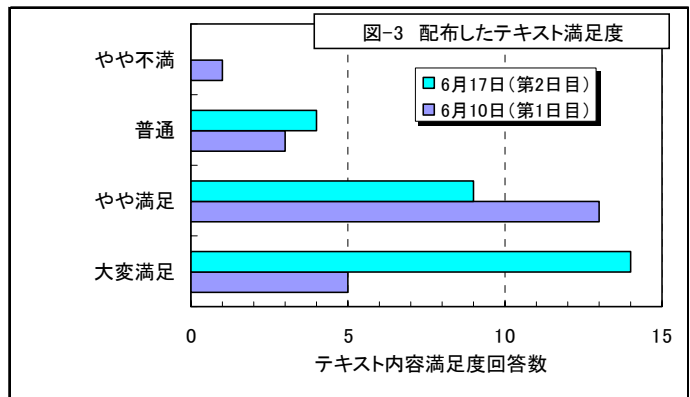
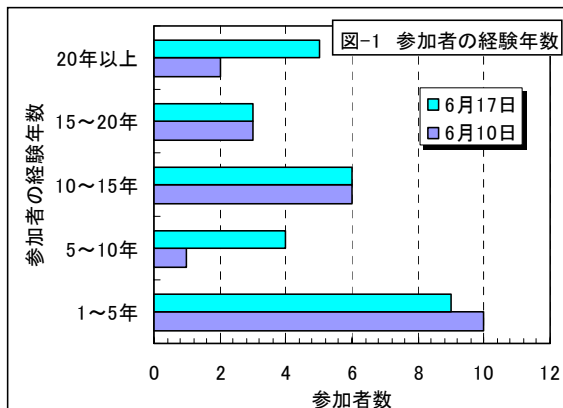
6月17日参加者全員集合



物理試験実施状況

(実施結果)

- ①参加者の経験年数は、経験の少ない技術者～ベテラン技術者まで範囲が広く、バランスがとれていた。
- ②参加目的は、「すべて」が多く、次いで「動的試験」、「岩石試験・三軸試験」が比較的多かった。
- ③配布したテキストは、「土質試験 - 基本と手引き -」を主として引用したが、サブテキストには、職員がオリジナルで作成した「判りやすい地盤材料試験」を用いた。この結果、少し不満が発生しているが、大半は「大変満足+やや満足」で、好評だったと判断できる。
- ④職員の説明状況の評価については、2日間ともに「大変満足+やや満足」が大半であり、プレゼン能力も回を重ねる毎に向上してきていると判断できる。今後も、機会ある毎に、判りやすい解説に心掛けたい。
- ⑤全体の満足度は、「ほぼ満足」したとの回答であり、当初の目的が達成できたと判断できる。



(今後の課題と考えられるご意見, 良かったと考えられるご意見 - 主なものと考えられるご意見を記載 -)

***6月10日 (第1日目)**

- ①三軸の時間がもう少し欲しかった(モールの円を描いてみたかった)。
- ②業務に使用する際、どの試験でどの数値を得られ検討業務に使用できるかを教えて欲しかった。
- ③特に凍結試料の成形・ホットプレートを用いた土粒子密度試験に興味を持った。
- ④圧密 e_0 決定上の問題、三軸応力円適用上の問題等のノウハウ的・理論的なものについて、詳しいテキストがあると良い (注: 地盤工学会 土質基礎工学ライブラリー7参照)。最後の総括での講習も大変参考になった。

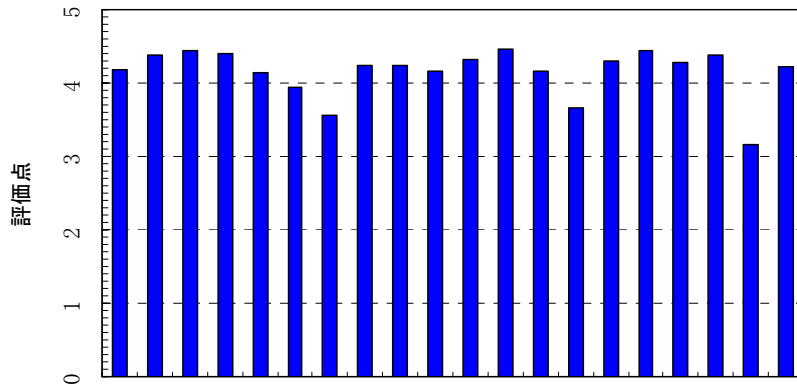
***6月17日 (第2日目)**

- ①時間の関係上、仕方ないとは言え話を聞いているだけの講習が多かったのが少し残念。
- ②非常に判りやすい説明と資料をご用意いただき大変参考になりました。試験への熱意が感じられました。
- ③岩石一軸試験と点載荷を同じ試料でかけてみたかったです。
- ④一軸の実際の解析は面白かったです。来年も開催されるよう希望します。

(事務局) 今後も継続して開催していきたいと考えています。

3. 平成 21 年度業務における組合員・準組合員モニター結果

当組合では、ISO の品質目標管理のために、年度終了後に業務を実際に担当された方々へ、当組合業務の品質評価を実施していただいています。質問は、ほぼ同じ内容ですので、組合の業務の評価推移を把握が可能となっています。H21年度の結果は、非常に高い評価を得ることができました。今後もこれを維持すべく努力します。



NO.	採点項目	評価項目	評価内容	H21-H20		
				H21年度 平均評価	H20年度 平均評価	H19年度 平均評価
1	1. 成果品評価	情報伝達	試験条件設定・結果に対する職員のコミュニケーションに満足していますか	4.3	4.2	3.9
2		品質確保	当組合の納品している土質試験成果品に対して満足していますか	4.7	4.4	4.5
3		電子納品	当組合の電子納品の成果に満足していますか	4.6	4.4	4.4
4		成果品納品	当組合の成果品の納品方法に対して満足されていますか	4.4	4.4	4.5
5		試験工期	当組合の成果品工期に満足していますか	4.3	4.1	3.9
6		データ管理	当組合のデータ管理 (ISO規定で3年保存) について満足されていますか	4.4	3.9	4.2
7		試験単価	当組合の試験単価に対する満足度はいかがでしょうか。	3.6	3.6	3.7
8	2. 試験技術評価	試験技術	当組合の土質試験・岩石試験等の試験技術に満足されていますか	4.6	4.2	4.1
9		機器管理	組合の試験機器の能力・精度に関して満足されていますか	4.5	4.2	4.4
10		設備の種類	当組合が現在設置している試験設備・種類に満足されていますか	4.4	4.2	4.0
11		試験実務対応	職員の実務対応 (日常業務、要望の処理) に満足されていますか	4.5	4.3	4.2
12		〃	職員の電話対応に関して満足されていますか	4.5	4.5	4.3
13		試験技術向上	職員はCPD≧30hを目標に、技術力向上に努力中ですが満足されていますか	4.4	4.2	4.2
14		ホームページ	組合のホームページにおける内容は満足されていますか	4.1	3.7	3.7
15		pdf	当組合が納品するpdfに対して満足されていますか	4.4	4.3	4.4
16		応対方法	組合の電子納品に対する応対に、満足されていますか	4.6	4.4	4.3
17		3. 電子納品詳細	写真	成果品におけるデジタル写真の成果について満足されていますか	4.5	4.3
18	メール		職員が実施しているメール連絡・報告について、満足されていますか	4.3	4.4	4.4
19	電子納品価格		電子納品手数料は諸経費の4%としていますが、価格はいかがですか	3.5	3.2	3.1
20	取組み姿勢		電子納品に対する取組み姿勢に関して満足されていますか	4.5	4.2	4.1
合 計 (総合評価 100点満点)				87.1	83.1	82.7
				4.0		

【アンケート結果に対する評価】

- ① ここ数年と比較すると、総合評価点が87.1点と非常に高い評価を頂いたことが特筆される。
- ② 成果品評価に関しては、「データ管理」が昨年度と比較して+0.50点上昇したのは、組合のデータが電子化されていて、ISOでは3年を規定しているものの、実際には6年以上のデータ保管がなされていることへの広告と発注者の理解が得られてきたことと判断する (H20年度と比較して、+0.30点上昇していることも評価を裏付けている)。
- ③ 併せて、「品質確保」についての評価が、36人の回答者平均で4.7点と全アンケート項目の最高点が得られたことも特筆できる。組合のここ数年の品質向上に対する努力と学会などへの論文投稿などによる発注者に対してアピールしてきたことが評価されてきているものと考えられる。
- ④ 試験の工期についても、発注者との綿密な協議を心掛けていること、一端定めた納期は絶対遵守することを心掛けていることが評価されたいと考える (前年度+0.20点)。また電子納品の品質も前年度+0.20点と向上している。
- ⑤ 反面、成果品納品方法が低下はしていないものの向上していないこと、情報伝達の向上が他の項目に比較して小さい、併せて、試験単価に対する満足度が全体的に低いことが特筆される。試験単価については、利用分量に応じた値引き+配当で、総額1,670万円を利用者に返却していることのアピールをすることで少しは理解していただけたと考える。また、市場単価の低下も影響していると判断する。
- ⑥ 2. 試験技術評価の全体的なレベルUPも特筆できる。試験技術が+0.40点、ホームページの満足度も+0.40点とUPしたことが嬉しい。HPは、ここ数年低い評価であったが、H20年度末に全面的に改訂したことによって高まったといえる。職員の電話対応は高いレベルにあるが、また改善するところもあり、さらに努力していく必要がある。
- ⑦ 電子納品関係は、「メール連絡・報告」が唯一、前年度と比較して低下していることが反省材料である。電子納品価格は低いながらも、少し理解されてきているように見える。またその取り組み姿勢は、前年度に比較して、+0.30点のUPであり特筆される。また、電子納品の応対方法についても、4.6点と高い評価を頂いたことが数年の努力によるものと評価される。

平成21年度お客様モニター結果

1. アンケート回収方法

- ①アンケートの回収方法、質問内容は、同じレベルで評価を頂くためにH18年度以降ほぼ同じ内容とした(一部修正追記)。
- ②回収は、組合員16社(25名)＋準組合員10社(11名)合計36名の方にお答えいただきました。

2. 評価

2.1 成果品評価に対する満足度

- ①品質確保が、平均4.7点を計上できたことが嬉しい。さらに品質向上を目指す。
- ②「やや不満」が4人居られた。H20と比較して1名増加したことが反省点。理由を把握して今後の改善に努力したい。
- ③反面、組合のデータ管理について、保存はPDFデータで管理していることから、ほぼ永久保存している。しかしISO規定で、3年としていることから、今後、規定の見直しとアンケートの内容更新が必要と考える。

2.2 試験技術評価

- ①本項目は、職員の仕事に対する満足度が向上しているが、他の全体的に向上している。
- ②試験技術・HPの改善が0.4点と大きい。
- ③H20の課題の機器管理に対する評価も改善された。職員のCPDも満足度が向上。

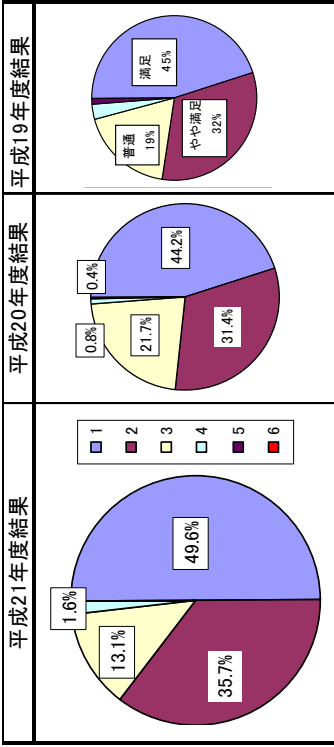
2.3 電子納品

- ①メール以外は、0.3～0.1点改善された。
- ②1.試験単価と同様に電子納品価格が低い評価を継続しているが、諸経費と想定したことでも改善された。また取組姿勢についても評価改善を受けた。
- 3.全体評価
 - ①全体評価が4.0ポイントと格段に向上した。このことは今迄の取組が発注者に評価されつつあると考えられる。
 - ②組合のISO目標を達成することができた。

1. 成果品評価に対する満足度

質問数7×返答36件=252	回答点数	割合(%)	右図凡例
満足	252	49.6%	1
やや満足	252	35.7%	2
普通	252	13.1%	3
やや不満	252	1.6%	4
不満	252	0.0%	5
評価不能	252	0.0%	6

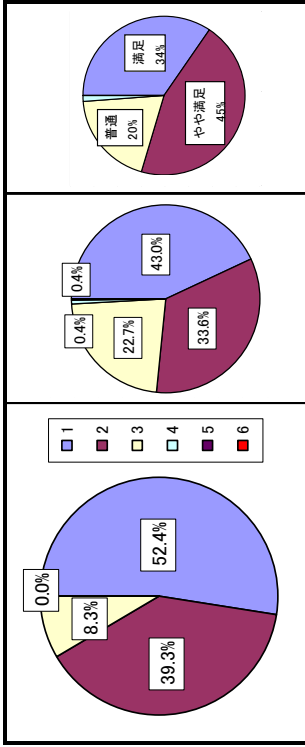
・全体的評価は過去2年と比べ、満足が5%増加。やや満足と合わせて、85.3%と10%のUP。やや不満以下の評価が、H19は8件H20は3件だがH21は4件が反省点。



2. 試験技術評価に関する満足度

質問数7×返答36件=252	回答点数	割合(%)	右図凡例
満足	252	52.4%	1
やや満足	252	39.3%	2
普通	252	8.3%	3
やや不満	252	0.0%	4
不満	252	0.0%	5
評価不能	252	0.0%	6

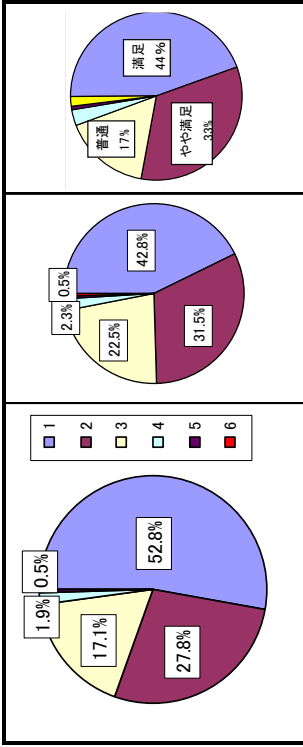
・試験技術評価の満足がH19=34%、H20=43%からH21=52%に増加したことが特筆事項。
・HPをH20年度末に全面的に改訂したことが評価されている。今後さらに改善する。



3. 電子納品詳細に関する満足度

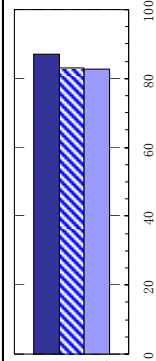
質問数6×返答36件=216	回答点数	割合(%)	右図凡例
満足	216	52.8%	1
やや満足	216	27.8%	2
普通	216	17.1%	3
やや不満	216	1.9%	4
不満	216	0.5%	5
評価不能	216	0.0%	6

・電子納品の満足がH19=44%、H20=42%に対し、H21=52%と10%UPしたことが特筆事項。
・電子納品価格も全体的評価が低いが、ここ数年と比較すると、0.3点改善された。



③H19年度～H21年度の総合評価の推移を右図に示す。

H19年度とH20年度は大きな差がないが、H21年度はアンケート結果にも記載したように、4.0点ものUPとなった。総合点でも87.1点となり非常に嬉しいアンケート結果となった。これを励みにして、さらに発注者から高い評価をいただけるように職員一同努力改善を進めていきたい。



4. 組合からのお知らせ

(1) 新役員体制

さる5月25日(火)の定例総会におきまして、役員が改選され、下記の通りそれぞれ就任いたしました。今後とも前任者同様、よろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

理事長 加藤 辰 昭 (富士開発株式会社 代表取締役)
 副理事長 瀬 古 一 郎 (中央開発株式会社 代表取締役)
 専務理事 坪 田 邦 治 (員 外)
 理事 伊 藤 武 夫 (東邦地水株式会社 代表取締役)
 理事 小 川 博 之 (株式会社アオイテック 代表取締役)
 理事 内 藤 正 (川崎地質株式会社 代表取締役)
 理事 森 研 二 (基礎地盤コンサルタンツ株式会社 取締役)
 監 事 武 藤 英 教 (青葉工業株式会社 取締役)
 監 事 田 部 井 伸 夫 (玉野総合コンサルタント株式会社 代表取締役)

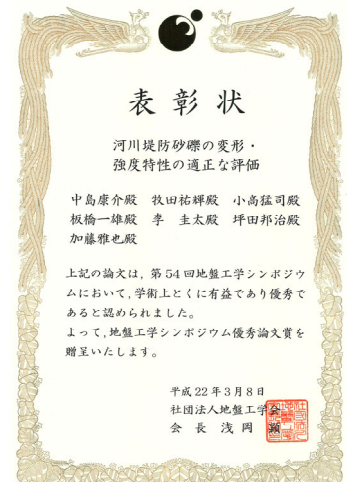
(2) 地盤工学会誌 平成22年6月号から引用 (p.43)

地盤工学会創立60周年記念事業の一環として、平成21年11月19,20日の2日間で、千代田区の中央大学駿河台記念館において、第54回地盤工学シンポジウムが開催された。創立60周年のキャッチコピーである「海に、山に、街に・地盤工学・」をテーマとして、地盤工学の諸問題に対する実験、解析、設計、施工などの幅広い分野の論文を募集された結果、国内外のビッグプロジェクトを含む86編の論文が発表された。併せて、平成20年度地盤工学会賞受賞者講演が行われ、参加者は221名であった。このなかで、60周年記念として優れた論文を表彰する優秀論文賞が設けられ、調査・研究部により1次～2次審査が実施された後、表彰委員会において最終決定された。優秀論文賞は3編選定(小高先生グループが他に1編選出されています)されたが、ジオ・ラボ中部が大型三軸試験に協力し、小高先生グループがまとめ、発表された下記の論文が選定されたものである。小高先生・中島さんに深く感謝申し上げます。

河川堤防砂礫の変形・強度特性の適正な評価：

中島康介(名城大学), 牧田祐輝, 小高猛司, 板橋一雄, 李圭太, 坪田邦治, 加藤雅也

「受賞理由:本研究では礫から細粒分までを含む河川堤防土を対象に、大型三軸、中型三軸および小型三軸を実施し、その結果に基づき、小型三軸試験により変形強度特性を得る手法を提案している。得られた結果は非常に有益であり、今後の河川堤防土の試験や堤防の設計法への発展が期待される。」との講評を得た。



中部地域の皆様に貢献する

ジオ・ラボ中部

理事長:加藤 辰昭 技術顧問:植下 協(名大名誉教授)

組合員内訳	愛知県15社,三重県2社,静岡県1社		
(株)アオイテック	青葉工業(株)	(株)アクアテルス	川崎地質(株)
基礎地盤コンサルタンツ(株)	(株)キンキ地質センター	サンコーコンサルタント(株)	(株)ダイヤコンサルタント
玉野総合コンサルタント(株)	中央開発(株)	(株)東建ジオテック	東邦地水(株)
(株)中日本コンサルタント	(株)日さく	日特建設(株)	富士開発(株)
松阪鑿泉(株)	明治コンサルタント(株)		
準組合員内訳	愛知県11社,三重県1社,岐阜県1社,静岡県2社		
朝日土質(株)	応用地質(株)	協和地研(株)	興亜開発(株)
(株)栄基礎調査	(株)シマダ技術コンサルタント	住鉱コンサルタント(株)	大成基礎設計(株)
(株)大和地質	(株)中部ウェルボーリング社	(株)東海環境エンジニア	(株)東京ソイルリサーチ
日本物理探査(株)	(株)ヨコタテック	(株)フジヤマ	